



加地薬局かわら版

2015年3月



🦋 ピロリ菌とは？

ピロリ菌は正式名称を“ヘリコバクターピロリ”という、胃の中で悪さをするらせん形をした細菌です。体長は約4ミクロン（4/1000mm）と、とても小さく4~8本のべん毛が生えています。

そのべん毛を回転させて、らせん状の体を移動します。

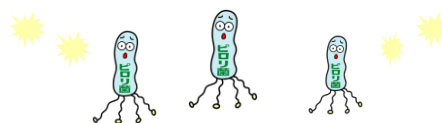
日本には約3500万人のピロリ菌感染者がいると推定されており、高齢者ほど感染率が高くなっています。子供の頃に感染し、一度感染すると多くは除菌しない限り胃の中に棲み続けます。

ピロリ菌に感染すると炎症が起こりますが、この時点では症状のない人がほとんどです。**ピロリ菌の感染が続くと、感染範囲が広がって慢性胃炎がすすみます。**この慢性胃炎は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎、胃がん、全身的な病気を引き起こすおそれがあります。

ピロリ菌感染が気になる方は、除菌療法の対象となる病気なのか、ピロリ菌の検査や除菌療法が必要かなどを、かかりつけの医師と相談してみてください。

🦋 ピロリ菌の検査

ピロリ菌を見つける検査には3つの方法があります。



検査の種類	検査の内容
内視鏡検査	「胃カメラ」ともいわれます。内視鏡を口から胃の中に入れて、先端についている超小型のカメラで胃の中の様子を直接モニター画面に映し出して観察します。苦痛の少ない鼻からの内視鏡もありますが、それぞれにメリット・デメリットがあります。
尿素呼気検査法	尿素を口から投与して、15~20分後に呼気を採取します。 呼気中にある二酸化炭素の比率でピロリ菌の有無を調べます。
ピロリ菌抗体法	血液や尿、唾液などを採って、ピロリ菌に感染したときにできる抗体の有無を調べます。

🦋 ピロリ菌の除菌

お薬による除菌療法・・・**除菌により、関連する病気が改善したり予防できることがあります。**

ピロリ菌の除菌には、“胃酸の分泌をおさえる薬”と“2種類の抗菌剤”を服用します。

1日2回7日間飲みます。治療終了後、4週間以上たってから除菌できたか検査します。

正しく服用すれば約75%成功します。

1回目の除菌がうまくいかなかったとしても、2次除菌療法があります。

1次除菌で使用した抗菌剤の1つを別の薬にかえて、再び7日間服用します。

こちらは正しく服用すれば、85%以上成功します。



除菌療法中は副作用が出ることがあります。主に軟便、下痢です。

軽い場合は自己判断で減らしたりせず、最後まできちんと服用続けて下さい。

発熱や腹痛を伴う下痢、便に血が混ざっている、発疹、かゆみがあらわれた時は、すぐ服用中止し受診して下さい。

ピロリ菌の除菌は、保険適用上の対象疾患（胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃癌・MALTリンパ腫・特発性血小板減少症・慢性胃炎）である場合、2次除菌までは保険適用されます。

3次除菌からは保険適用外となります。

🦋 除菌終了後

ピロリ菌除菌が成功しても、関連する病気のリスクが、ゼロになったわけではありません。

定期的に検査を受けるようにしましょう。

